



TNB58だより

平成 26 年 5 月号

ゴールデンウィークも終わり、いよいよ平成 26 年度の教育活動が本格化してきました。4 月は新しい学級を担当し、子どもたち個々の、そして集団としての学習指導や生徒指導の課題を明確にすることに努められたことと思います。小学校では自然学校、中学校では 1 年生が初めて経験する中間検査や 2 年生のトライやるウィークなどが、絶好の観察や指導の場となります。それらを踏まえたうえで、先生方の個性に応じた指導計画が作成されるものと思います。計画通りにはなかなかいかないと思いますが、先生が作りたい学級像を明確にした分かりやすく、夢のあるものを作り、子どもたちに内容を提示することにより、一緒に学級を作っていく意識を子どもたちにもたせるのも大切なことではないでしょうか。入梅までは一年の内で一番過ごしやすい季節です。多忙な時期でもありますが、明るい希望に溢れた一年の絵が描けるように、学級づくりをスタートさせてください。

今月は、校長先生の研修会での講義内容を紹介します。子どもたちと接する上での参考にしてください。



クラスが変わるソーシャルスキル 2

● 4つのプロセスで組み立てる授業

- ① インストラクション(その日に学ぶ目的を説明する時間)
- ② モデリング(教師がよい例や悪い例の見本を実際にやってみせる時間)
- ③ リハーサル(子どもが隣の席の子とペアになり、実際に声に出して演じる時間)
- ④ フィードバック(その日学んだトレーニングを振り返ったり感じたりしたことを確認する時間)

■ 「友達づくりのスキル」…あいさつと自己紹介

あいさつはすべての人間関係の始まりで友達づくりの基本となります。なぜあいさつが大切なのか、どんなあいさつが「きちんと」しているのか、どんなタイミングで、どういう声や表情で行えばよいのか、具体的な方法を教わっていないためあいさつができない子が増えているのです。

- ・朝起きてから夜寝るまでの基本的なあいさつの確認
- ・いちばん身近な「友達」との気持ちのいいあいさつ(朝友達に会ったとき、下校時に別れるとき)

自己紹介は単に自分のことを相手に知らせるためのものではなく、自分がどういう人間で、どんなことを考えていて、何が好きで、何が嫌いかということを知り、それを言葉に置き換えていく高度なスキルです。自分を客観的に見つめて、言葉にするスキルともいえます。自分を知るとは、人との関係や集団の中で、自分には何ができるか、何をすべきかを考える力にもなっています。

自己紹介で一番大切なのは、「自分を見つめる」こと。簡単なワークシートを使って子どもが自分自身をよく知り、それを発表していく機会にしましょう。

- ・名前
- ・呼んでほしい呼び名
- ・好きな食べ物
- ・好きな教科
- ・好きなテレビ番組
- ・将来の夢

(岩澤一美監修「クラスが変わる！子どものソーシャルスキル指導法」より)

講義題「学校における児童生徒の自殺予防」

講師：兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授 新井 肇先生

[H26. 4. 24 丹波地区学校経営（校長）研究協議会にて]

・自殺の現状

不況の影響から 1998 年に初めて自殺者が 3 万人(7 割が男性)を超えた。自殺対策基本法が制定され、「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」「子どもの自殺が起きたときの緊急対応の手引き」「子どもの自殺が起きたときの調査指針」が出されたが、2012 年には 30 代以上の自殺者数が減少している一方で、10 代、20 代は上昇し、15～29 歳では死因の第 1 位が自殺となっている。

・自殺の現状と背景

児童・生徒の自殺の背景には、以下の 2 点が考えられる。

- ・ケータイ・ネットやゲーム等の影響から、直接体験を通じての関係より仮想空間での関係が濃密になり現実のあり方についての認識の歪みが生じていること
- ・家族内での対人関係の縮小(平均世帯人員 1955 年 4.68 人→2005 年 2.56 人)、出生や死亡場所の変化による家族機能の縮小

河合隼雄先生は「子どもから死を遠ざけるのではなく、死についての豊かなイメージを育てることによって現実の死を防ぐことができる」と述べられており、

- ・現実と非現実の区別を認識させる
揺るがしがたい現実（生命や時間の一回性）について学ぶ機会をもつ
- ・多様で豊かな人間関係に触れる体験をさせる

等の開発的な生徒指導や教育相談の展開が必要になってくる。

・自殺の原因と直前のサイン

推定できる子どもの自殺の原因・動機の 4 割は学校問題(進路や学業の不振、友達との不和やいじめ)で、そのときの心理は極度の孤立感・不安や心理的視野狭窄の状態である。そのため彼らが発する直前のサイン(ほめかし・身なりの変化・家出・自傷行為など)を絶対に見逃さないこと。

・児童・生徒に伝えたいこと

①子どもへの関わり—TALKの原則(気持ちを傾聴し、心配していることを伝える)

Tell: 言葉に出して心配していることを伝える

Ask: 「死にたい」という気持ちの背景にあるものについて尋ねる

Listen: 絶望的な気持ちを傾聴する

Keep safe: 安全を確保する

②リフレーミング(ものの見方や物事のとらえ方を変えると反応や行動も変化する)

③相談することの大切さ・ACT(気づく・かかわる・つなぐ)・レジリエンス

⇒ **子ども自身が自殺の危機を乗り越える力、互いの危機下に適切に対応できる力を育む**



・自殺予防のための学校内外の連携

- ② 内体制の構築と組織的な対応
- ② 校外のネットワークを機能させる

・不幸にも自殺が起きてしまったときの対応

危機対応チームの組織化・・・危機意識の共有化、トップリーダーシップ、方針の明確化

・今後の課題

- ①発達段階に応じた自殺予防教育の展開『未来を生き抜く教育』として
- ②ゲートキーパーとしての大人の役割
- ③学校と保護者・関係機関のつながり

※「ゲートキーパー」とは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。